

インフルエンザ(2022/23 シーズン)

インフルエンザの定点当たり報告数は、2022 年第 51 週(12 月 19 日～25 日)に 1.22 となり、流行期の基準である 1.0 を超えました。流行期に入ったのは 3 年ぶりとなります。

病原体サーベイランスでは、2023 年 1 月 16 日時点で 27 件のインフルエンザウイルスが検出され、その内訳は AH3 が 25 件、B 型ビクトリア系統が 2 件となっています(図 1)。

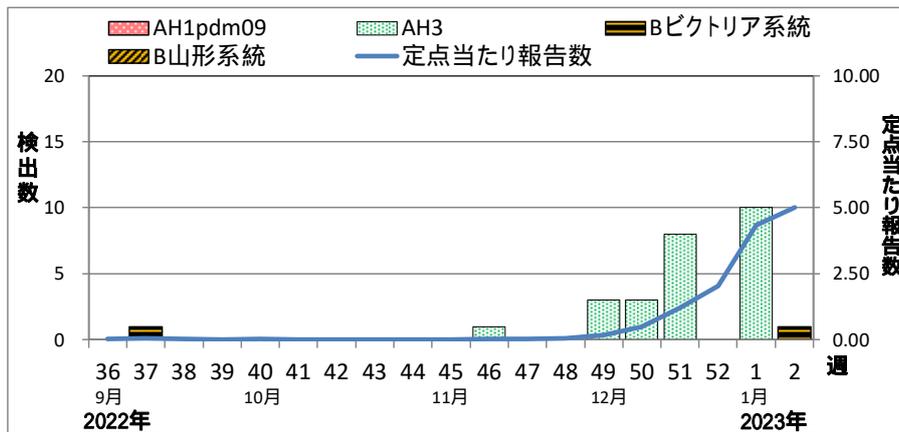


図 1 インフルエンザウイルス検出数 (2022/23 シーズン)

過去のシーズンを振り返ると、定点当たり報告数が 80 を超える大きな流行となった 2018/19 シーズンは、流行初期は AH1pdm09、年明けからは AH3 が多く検出され、流行終期は B 型ビクトリア系統が検出されました。また、新型コロナウイルス感染症が出現したシーズンである 2019/20 シーズンは、AH1pdm09 が多く検出され、流行終期に B 型ビクトリア系統が検出されました(図 2)。

なお、2020/21 シーズン及び 2021/22 シーズンは全国、県内ともインフルエンザの流行がなく、埼玉県でのインフルエンザウイルス検出は 2 件(2021/22 シーズン)のみでした。

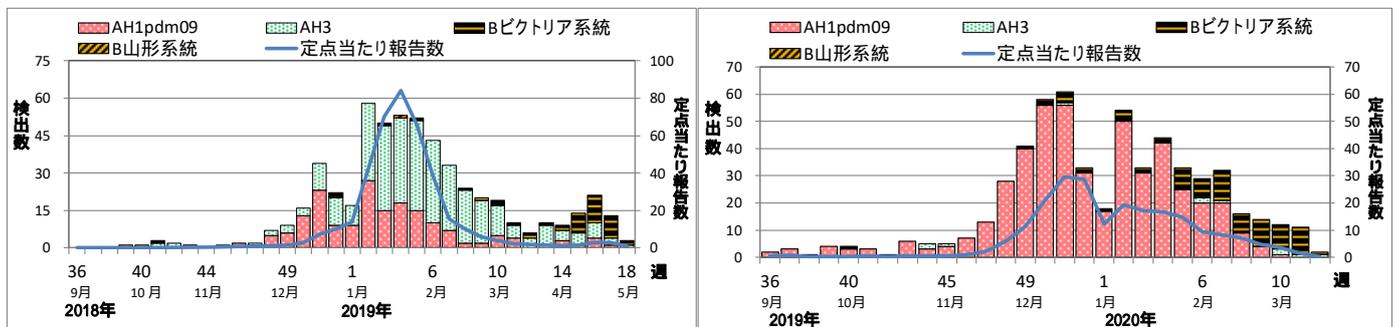


図 2 インフルエンザウイルス検出数 (2018/19 シーズン及び 2019/20 シーズン)

インフルエンザの拡大や新型コロナウイルス感染症との同時流行が懸念されております。指定提出機関の先生方には、流行ウイルスの把握のため引き続き検体採取にご協力をお願いいたします。